都民に、そして東京を訪れる多くの人々に愛される河川を目指して

中島　高志
東京都　建設局　河川部長

東京の水辺が復権しつつある

東京を代表する河川である隅田川では、東京スカイツリーが開業したことに伴い、浅草と押上の間の動線が強まり、北十間川も含めて河川沿いが賑わいを見せている。昨年１０月には東京の河川では初めてとなるオープンカフェが生まれ、吾妻橋ではヘブンアーティストによる大道芸も見ることができるようになった。

東京スカイツリーと隅田川

隅田公園オープンカフェ

ヘブンアーティスト

舟運も活性化しつつあり、水上バスや江戸時代からの歴史ある屋形船で楽しむ外国人観光客も多い。日本橋のたもとには船着場が誕生し、船による新たな観光ルートが人気となっている。

日本橋船着場の様子

水陸両用車”SKY Duck”

河川と都市との関わり方は時代や地域の状況により変化する

江戸時代は、舟運が物流の主たる手段として利用され、隅田川をはじめ川沿いに神社や寺が多く立地していたことなどから、水辺には賑わいがあったし、行楽目的も含めて舟運も活発であった。

その後近代に入り、工業化や都市化、モータリゼーションが進展するにつれ、舟運は衰え、水質の悪化も進む一方で、河川行政の第一の目的である「都民の命と暮らしを守る」ため、水害と戦いながらコンクリート直立護岸などを急いで整備したことから、残念ながら水辺は近づき難い場所となってしまった。

しかし、その後、下水道の整備の進展により水質が改善され、スーパー堤防やテラスの整備などにより水辺を散策できる通路が増えるなど、都市と水辺の結びつきを再び強化するための条件が整いつつある。

スーパー堤防整備によって開放的な水辺景観に生まれ変わった大川端地区（隅田川）

開放性があり、自然を感じられる河川は都市の貴重なオープンスペース

パリのセーヌ川、ロンドンのテムズ川など、世界を代表する都市には、それにふさわしい魅力的な河川がある。

東京でも、隅田川を中心に、歩いて楽しい、走って楽しい、眺めて楽しい、船からも楽しめる、そうした河川空間を創造するとともに、沿川のまちを生かし、まちが河川を生かす、相乗効果のある都市づくりにつなげていければと思う。

そのためにはどうすれば良いか。この懇談会での議論（大変参考になりました）を踏まえて、私見だが簡単に述べてみたい。

まずは、人々の河川に対する関心をもっと高めることである。前述したように、国の規制緩和も進み、河川で様々な利活用が行われている。規制緩和を活用したオープンカフェや「かわてらす」の誘致などを進めるとともに、イベント等も随時行ってもらい、情報発信を活発にする。それにより、河川で活動することは良いことだ、河川に顔を向けることは良いことだ、という機運を醸成する。

「かわてらす」イメージ

「太陽のマルシェ」の開催

リバーサイドオータムフェスタ（隅田川）

これと並行し、河川管理者として、テラスやスロープ、照明の整備、堤防の修景、船着場の整備や一般開放など、引き続き様々な形で河川空間に手を加えていかなければならない。整備に当たっては、江戸東京の歴史を踏まえつつ、地域の特色も加味したデザインとするとともに、周辺のまちとの連続性、一体性にも配慮する必要がある。

江戸情緒あふれる「塩の道」再生整備（小名木川）

そしてこれらを進めるしくみづくりも大切である。魅力的な河川空間を創出し、持続的に維持していくためには、到底河川管理者だけでできるものではなく、民間事業者などの知恵やノウハウ、資金、労力を借りることも必要であるし、地域の人々の賛同、協力を得て取組を進めていくことも必要である。こうした人々との協働を具体的に進め、形にしていけば良いと思っている。

両国広小路桟敷（隅田川）

“世界一の都市”東京の創造へ

２０２０年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、選手村や多くの競技会場が水辺に設置されます。これを東京の水辺を変える絶好の機会と捉え、成熟した世界一の都市東京の創造に向けて、夢のある、魅力あふれる都市空間・水辺空間を築いていければと思いますので、関係者の皆様、ご理解ご支援の程、よろしくお願いいたします。

なお、東京都では平成２５年度に「隅田川等における新たな水辺整備のあり方」の検討を進めてきましたが、その最終報告を建設局ホームページに掲載しておりますので、合わせてご覧下さい。

水辺の魅力を活かした東京の顔づくり
（「隅田川等における新たな水辺整備のあり方」より）

■参考資料

１．世界の水辺

世界の都市には、その都市を代表する川や水辺と周辺の街並みが一体となった、美しく風格のある空間が形成されています。

品格のある水辺

プリンス運河（オランダ）

統一感のある水辺の景観

ヤラ川（オーストラリア）

エリアでのマネージメント

セーヌ川（フランス）

街並みにふさわしい水辺利用

ニューハウン運河（デンマーク）

居心地の良い水辺空間

ライン川（ドイツ）

２．世界の水辺利用の実例

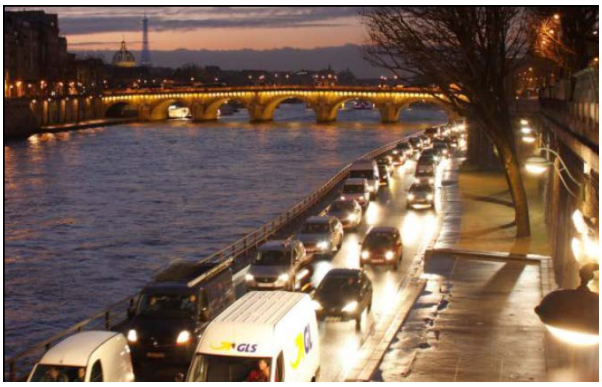
（１）フランス－パリ（セーヌ川）：パリ・プラージュ

■　夏のバカンスシーズンに高速道路の通行を止め、人工的なビーチを造成し市民に開放

開催期間：夏季1ヶ月間

（2013年7月20日～8月18日）

来客者数：23万人（2013年実績）

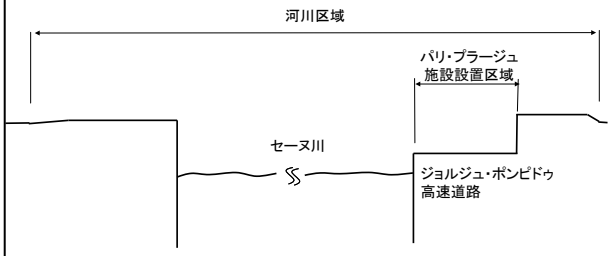


普段の高速道路の様子

パリプラージュの様子

（著作権者：slasher-fun、ライセンス：Cc-by-sa-3.0）

●空間構成（断面構成）



・施設設置場所：河川区域内の高速道路（セーヌ川右岸）

・施設内容：

ヤシの木、ビーチパラソル、ビーチチェア、
屋外のクライミング壁、屋外のカフェ、
軽食スタンド、レンタル自転車、人工の砂浜、
砂浜や水面を使ったカヌー、手漕ぎボート、
水上レストランなど。

・入場料は無料（カフェ、レストラン、
売店、アトラクション使用料等は別）

（2）イギリス－ロンドン（テムズ川）

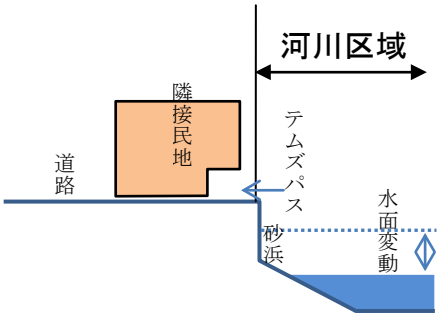
■　1988年の「一般開発令」により、用途変更の自由度を広げたこと等で、河川沿いの工場や倉庫が、事務所へとコンバージョンが進んだ。

■　毎年秋に行われる川をテーマとする芸術と教育の祭典テムズフェスティバルが行われ、多くの参加者がいる。

テムズパス

テムズフェスティバル
出典：The Mayor's Thames Festival　ホームページ
http://thamesfestival.org/

テムズパス（一部は建物1階部分を通過）

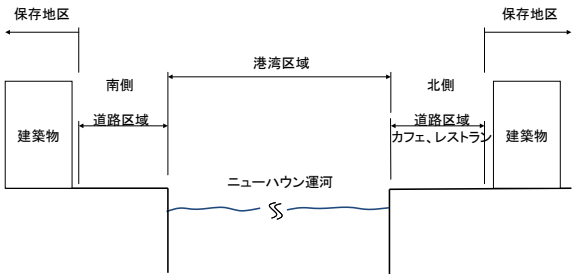


川沿いにパブリックフットパスの一つである「テムズパス」と呼ばれる遊歩道があり、川沿いの民地でも一部が遊歩道や建物内通路（アーケード）として解放されている。
テムズパスは、源流部から河口部まで、一部には川辺を離れる箇所もあるが、ほぼ川沿いに続いている。

（3）デンマーク―コペンハーゲン（ニューハウン運河）

■　ニューハウン（新たな港を意味する）沿いは、期間限定の歩行者天国とすることでカフェ・レストランやアンティークショップが軒を連ね、多くの観光客が来訪している。オープンカフェ設置基準で利用範囲等を規定している。

●空間構成（断面構成）

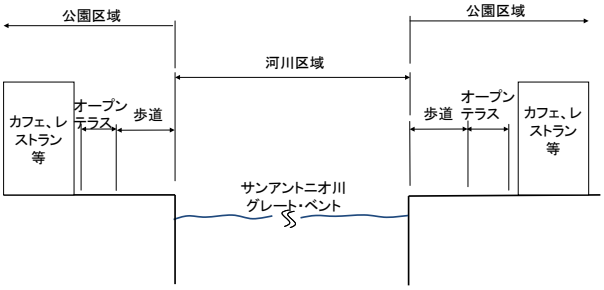


・施設設置場所：道路区域（ストロイエ：歩行者天国）
・施設内容：カフェ、レストラン（北側）
・コペンハーゲンのストロイエ（歩行者天国）で
　カフェ、売店等が市に払う使用料は平均3,900円/月・m2

（4）アメリカ–サンアントニオ（サンアントニオ川）

■　サン・アントニオ川の蛇行部を直線化し、水門で区切って洪水対策を施し、残された蛇行部（グレートベント）にリバーウォークを整備し、囲まれたエリアにホテル・コンベンションセンター・複合施設を建設して、全米屈指の観光都市に発展。（観光客数は約１千万人／年）

●空間構成（断面構成）



・施設設置場所：公園区域

・施設内容：

オープンテラスを設置したカフェ・レストラン

普通のカフェ・レストラン（オープンテラス無し）

観光者用施設

ホテル

リバーボート等

３．江戸の水辺

日本においても、水辺は古くは万葉の時代に詠まれた和歌や、浮世絵に描かれた江戸の下町と大川（隅田川）のように、積み重ねられた歴史・文化の奥深さとたゆたえ、川そのものが周辺の街並みと融け合って、地域の代表的な「顔」として美しく風格のある空間を形成していました。

江戸期の隅田川･両国橋

江戸期の日本橋川－１

江戸期の日本橋川－２

４．近年の日本の水辺（荒廃期）

戦後、高度経済成長等々、治水を中心とした時代の要請に応えるべく水辺は改変され、その一方で、人々の暮らしや街並みは水辺から遠ざかり、かつての地域の「顔」としての美しい姿は喪失してしまいました。多くの日本の都市では、川は効率を重視した排水路と化し、街並みからも背を向けられ、代表的な「顔」としての川や水辺の記憶は徐々に薄れていき、今や絵画や写真でしか見ることは出来ない状況です。

1960 年代：悪臭を放つ川（隅田川）

現在：川に背を向けた街（神田川）

1970 年代：水質汚濁が進み泡立つ川（多摩川）

現在：ゴミが投棄された川（境川）

1970 年代：水汚濁が進みスカム（浮きかす）が浮かぶ川（綾瀬川）

5．日本の水辺（萌芽期）

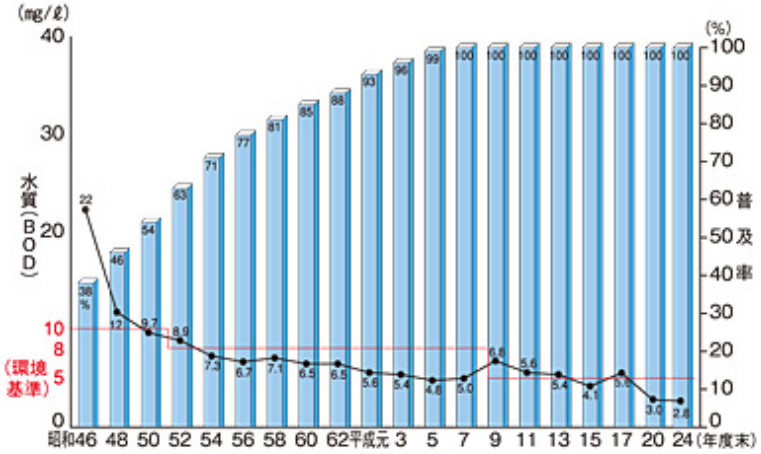
下水道の普及と河川水質

汚染され悪臭を放った川は、下水道の整備や水質規制といったハードとソフトの両施策により 1970 年代にはかなり水質が改善されてきました。昭和後期から平成にかけては、「かわまちづくり支援事業」、河川敷地占用許可準則の緩和等が行われ、少しずつ川と人々が近づきつつあります。

下水道の普及と河川水質

下水道の普及に伴い、河川の水質も改善している。

図は、隅田川の例だが、一時は悪臭を放っていた川も流域の下水道の普及により、徐々に水質が改善された。



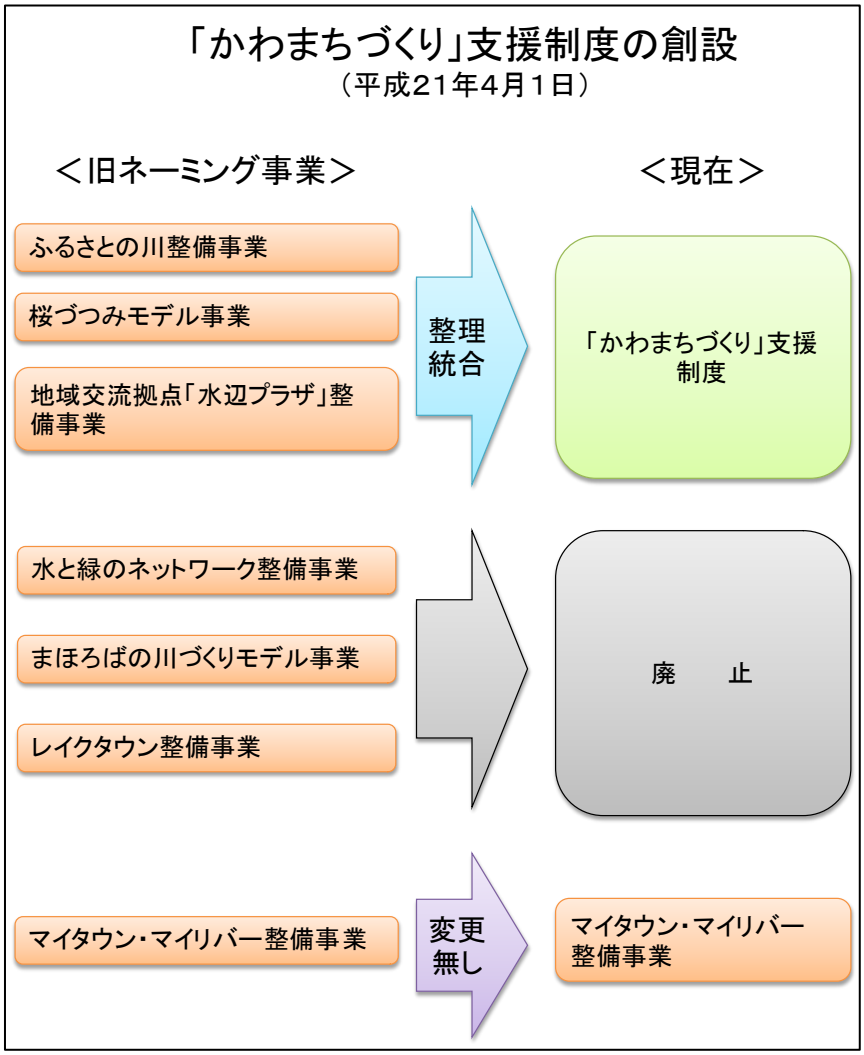
注1:普及率は、隅田川流域(板橋、北、練馬区)の普及率
注2:水質は、小台橋地点の年間のBODの値(75%水質値)

（出典：東京都の下水道 2013）

川を活かしたまちづくりの推進

国土交通省では、昭和６０年代から、各時代の情勢に応じて「ふるさとの川整備事業」や「桜づつみモデル事業」等の多種多様な河川事業制度によって、地域の河川利用を推進する取り組みを支援してきた。

平成２１年度に創設された「かわまちづくり」支援制度は、それまでの各種事業制度を発展的に統合して誕生した。「かわまちづくり」とは、河川空間とまちの空間の融合が図られた、良好な空間形成を目指す取り組みをいう。当該支援制度では、観光等の活性化につながる景観・歴史・文化等の地域の「資源」や地域の「知恵」を活かし、市町村等が河川管理者や地元住民と連携して作成する水辺の整備・利活用計画（かわまちづくり計画）に基づく取り組みに対して、河川管理者がハード・ソフト面での支援を行うものである。従来の各種事業制度では、拠点や個別区間での利活用増進を目標としたハード整備による支援が主だったのに対し、「かわまちづくり」支援制度では、より広域の「まち全体」を視野に入れ、地域活性化に資する河川空間利用を支援することを目指している。



川を活かしたまちづくりに関する制度

かわまちづくり支援制度のスキーム

河川敷地占用許可準則

河川敷地占用許可準則の緩和

従　前

・占用可能な施設及び主体

→公共性又は公益性のある施設（公園等）及び主体（地方公共団体等）に限定

特例措置（社会実験）

・2004 年 3 月より、民間事業者による河川敷地での営利活動を可能にする規制緩和を社会実験（特例措置）として実施。

・道頓堀川（大阪市）、京橋川等（広島県）等の８区域で限定的に実施。

道頓堀川（大阪市）

京橋川（広島県）

一部改正

2011 年 3 月より

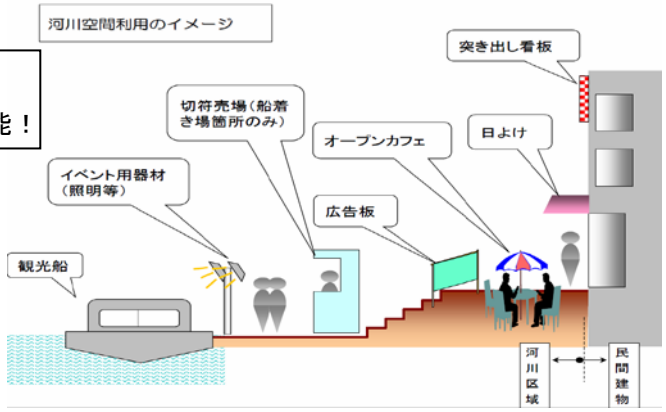
・地方公共団体の地域活性化施策の発意により

・協議会等の活用などにより、地方公共団体が地域の合意を図った上で、

・区域、占用方針（施設・許可方針）、占用主体を予め河川管理者が指定すれば

・民間事業者による河川敷地の占用が可能！

・イベント施設やオープンカフェ等の設置が可能！



河川占用許可準則（平成11年8月改正）	特例措置（平成16年3月通知）	河川占用許可準則（平成23年3月改正）
全国の河川	社会実験として以下の8河川 沙流川（平取町）、利根川（香取市） 堀川（名古屋市）、堂島川等（大阪市） 道頓堀川（大阪市）、箕面川（箕面市） 京橋川等（広島市）、那珂川等（福岡市）	全国の河川
占用施設	**占用施設**	**占用施設**
公園、運動場、橋梁、送電線等の公共性又は公益性のある施設	左記施設に加え、 ①広場、イベント施設等（これらと一体をなす飲食店、オープンカフェ、広告板、広告柱、照明・音響施設、バーベキュー場等） ②日よけ、船上食事施設、突出看板	左記施設と同じ ①同左 ②同左
占用主体	**占用主体**	**占用主体**
地方公共団体、公益事業者等の公的主体	①の施設は、公的主体 ②の施設は、公的主体又は民間事業者	①②の施設の区別なく、公的主体又は民間事業者

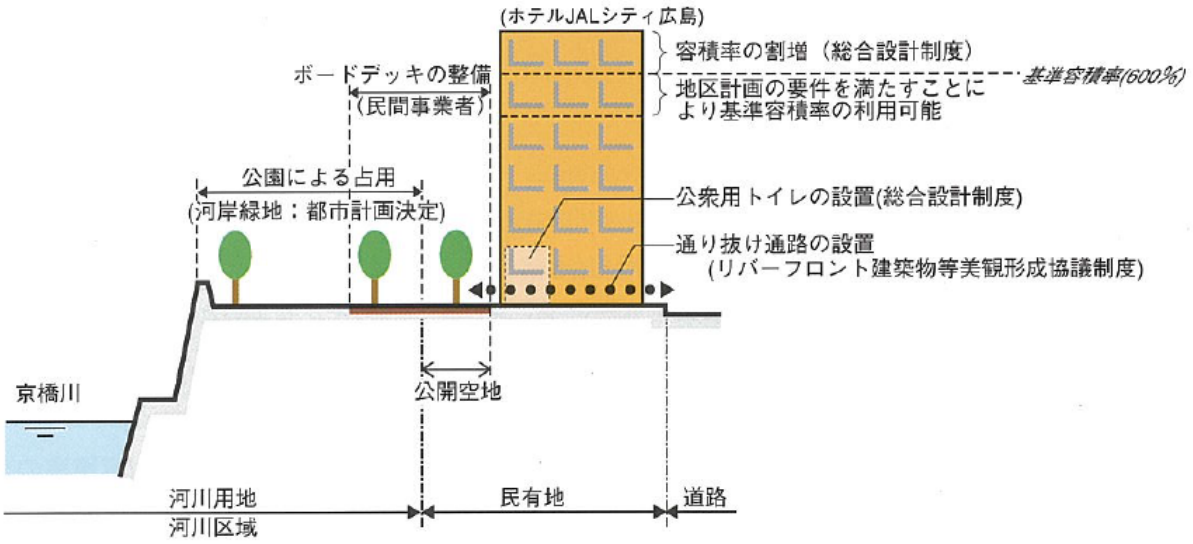
総合設計制度（建築基準法）

総合設計制度の活用（広島市：京橋川）

河岸緑地に面して公開空地を設置したことなどにより、容積率が割増された。

整備前

整備後



6．日本の水辺利用の実例

東京都台東区（隅田川）～都内初の民間占用～

- 東京スカイツリーを臨む絶好のビューポイントである台東区立隅田公園内に、水辺空間を活用したオープンカフェを出店する事業者を公募。
- 河川敷地に民間事業者が出店するのは、河川敷地占用許可準則の改正により可能になったもので、都内初の事業。

カフェ設置前

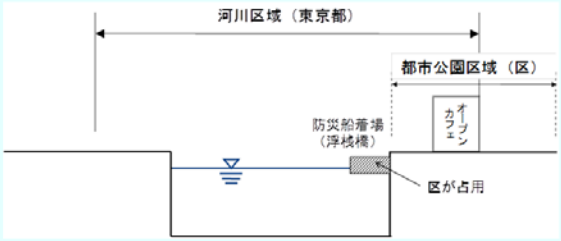
二天門防災船着場

カフェ設置後

東京都台東区（隅田川）

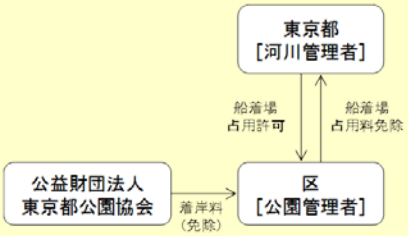
●空間構成（断面構成）

- 施設設置場所：河川区域および都市公園区域
- 施設内容：防災船着場（浮桟橋）、オープンカフェ
- 河川占用料：船着場は免除
  オープンカフェは年額9,054円/m2
- 公園占用料：日額37円/m2

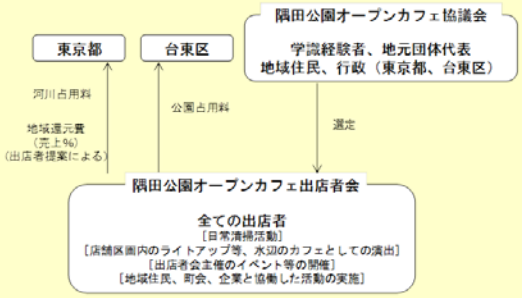


●事業スキーム

◆防災船着場（浮桟橋）

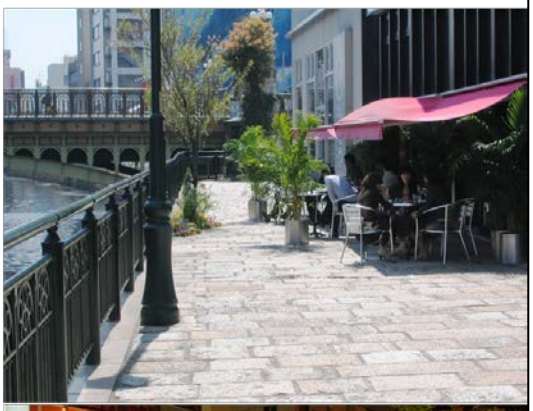


◆オープンカフェ



※占用料は一般会計として処理される

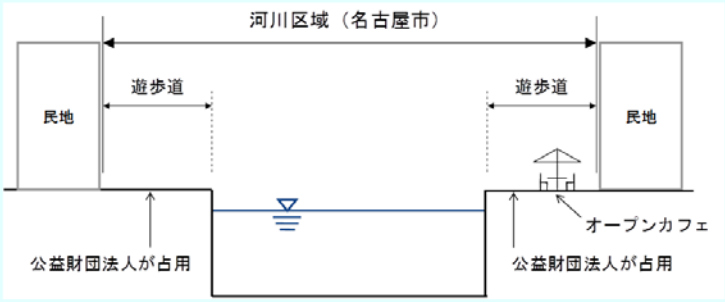
愛知県名古屋市（堀川）
～財団による占用～



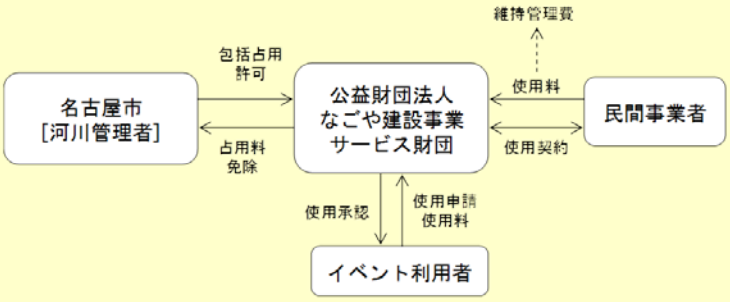
愛知県名古屋市（堀川）

●空間構成（断面構成）

・施設設置場所：河川区域
・施設内容：オープンカフェ
・河川占用料は無し（使用料のみ徴収）



●事業スキーム



※占用料は一般会計として処理される

大阪府大阪市（土佐堀川）～協議会による包括的な利用～

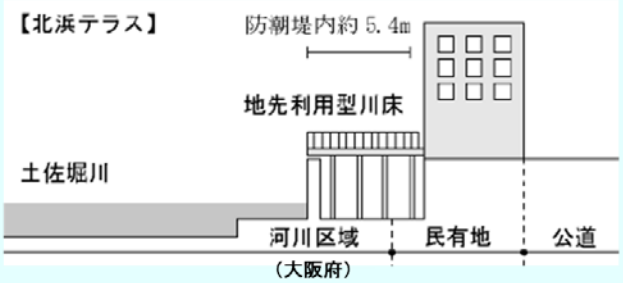
北浜テラス設置の歩み

2008.10　川床社会実験実施（1ヶ月）2000人以上の来客
2009.1　河川敷地占用許可準則の特例措置　改正
（占用施設に「川床」等を追加）
2009.5　川床社会実験実施（3ヶ月）
2009.7　北浜水辺協議会設立
2009.11　北浜水辺協議会が河川敷における都市・再生等利用区域の占用主体として許可され、包括的な利用を行う
（民間の任意団体として全国初）
常設型川床として3店舗開業
2013.4　川床9店舗

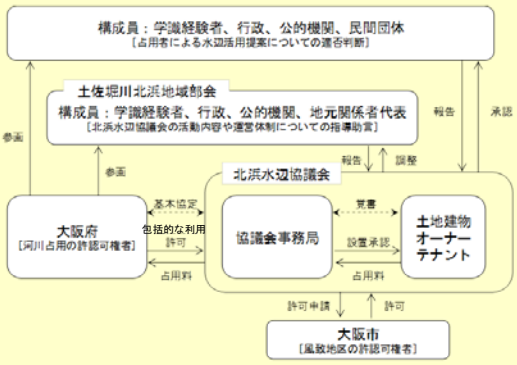
大阪府大阪市（土佐堀川）

●空間構成（断面構成）

・施設設置場所：河川区域
・施設内容：川床



●事業スキーム



※占用料は一般会計として処理される

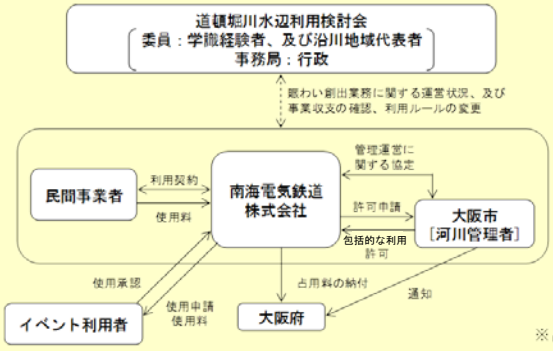
大阪府大阪市（道頓堀川）～鉄道事業者による包括的な利用～

大阪府大阪市（道頓堀川）

●空間構成（断面構成）

・施設設置場所：河川区域
・施設内容：桟橋

●事業スキーム



※占用料は一般会計として処理される

広島県広島市（京橋川･元安川）～協議会による占用～

- 京橋川や元安川の河岸緑地において、水辺に新たな魅力を創り出すため、民間のノウハウや活力を導入した「水辺のオープンカフェ」を実施。
- 京橋川沿いの河岸緑地では７店舗、元安川沿いで１店舗が営業中であり、多くの市民や来訪者に憩いの場、交流の場を提供するとともに、うるおいと安らぎを感じる風景を創出。
- 2005年10月に開業した京橋川オープンカフェ（独立店舗型）は、河川空間で民間事業者による常設店舗を設置した全国初の取り組み。
- 隣接民有地内の店舗が河岸緑地を一体的に空間利用する「地先利用型」と河岸緑地に新たに店舗そのものを設置する「独立店舗型」の2形態がある。

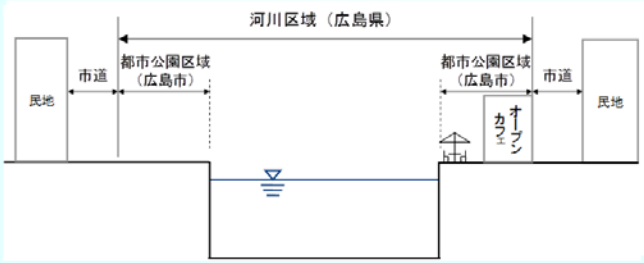
京橋川のオープンカフェ（地先利用型）

京橋川のオープンカフェ（独立店舗型）

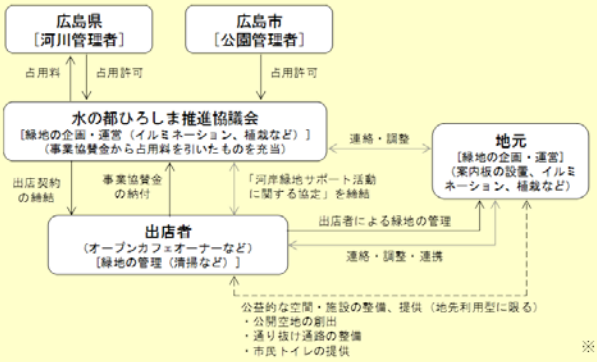
広島県広島市（京橋川･元安川）

●空間構成（断面構成）

・施設設置場所：河川区域および都市公園区域
・施設内容：オープンカフェ
・事業協賛金：
[京橋川]
地先利用型　2,610円/m2・年
（うち河川占用料210円/m2・年）
独立店舗型　13,090円/m2・年
（うち河川占用料2,400円/m2・年）



●事業スキーム



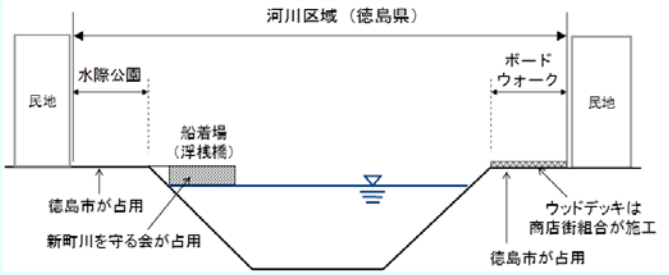
※占用料は一般会計として処理される

徳島県徳島市（新町川）～NPOによる占用～

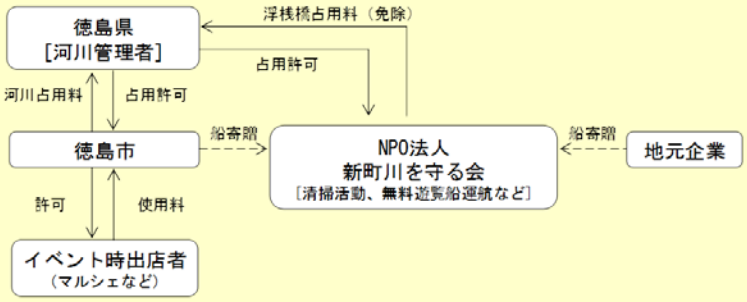
徳島県徳島市（新町川）

●空間構成（断面構成）

・施設設置場所：河川区域
・施設内容：船着場（浮桟橋）、マルシェ



●事業スキーム



※占用料は一般会計として処理される

7.「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」

水辺、都市のリノベーションに高い関心を持つ、学識者、アーティスト、クリエイター、金融、不動産等々の各界の有識者からなる『水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会』を立ち上げ、未来創造へのヒントをまとめることにしました。

「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」
コメンテーターリスト

（敬称略・50 音順）

	氏名	所属
座長	陣内（じんない）　秀信（ひでのぶ）	法政大学デザイン工学部建築学科教授
コメンテーター	井出（いで）　玄一（げんいち）	一般社団法人ボート・ピープル・アソシエイション代表理事
〃	伊藤（いとう）　香織（かおり）	東京理科大学理工学部建築学科准教授
〃	金井（かない）　司（つかさ）	三井住友信託銀行経営企画部理事・CSR 担当部長
〃	岸井（きしい）　隆幸（たかゆき）	日本大学理工学部土木工学科教授
〃	忽那（くつな）　裕樹（ひろき）	株式会社 E-design 代表取締役
〃	久米（くめ）　信行（のぶゆき）	久米繊維工業株式会社取締役会長
〃	紫牟田（しむた）伸子（のぶこ）	紫牟田伸子事務所代表
〃	田中（たなか）　義宏（よしひろ）	大阪府都市整備部技監 （代理：藁田博行　河川環境課長）
〃	辻田（つじた）　昌弘（まさひろ）	三井不動産株式会社Ｓ＆Ｅ総合研究所長
〃	遠山（とおやま）　正道（まさみち）	株式会社スマイルズ代表取締役社長
〃	中島（なかじま）　高志（たかし）	東京都建設局河川部長

■会議開催日等

第１回懇談会　平成 25 年 12 月 27 日　船上（隅田川、荒川等）

第２回懇談会　平成 26 年 1 月 16 日　リバーフロント研究所 会議室（日本橋川沿い）

第３回懇談会　平成 26 年 2 月 7 日　MIRROR ビル 7F プリバード（隅田川沿い）

第４回懇談会　平成 26 年 2 月 27 日　マーチエキュート神田万世橋（神田川沿い）

災害対策支援船「あらかわ号」

第１回懇談会

国土交通省が所有する「あらかわ号」にて、隅田川等の状況を視察しつつ、水辺への思いを語り合った。

最初の顔合わせであったが、「これは面白いことになるぞ」と互いに感じたとのことである。

第２回懇談会

日本橋川沿いに面したビルにあるリバーフロント研究所の会議室にて開催。

「もっと水辺を感じたい！」との意見で一致。次回は…。

公益財団法人 リバーフロント研究所

懇談会開催場所位置図

プリバードからの夜景

第３回懇談会

隅田川の厩橋に程近いMIRROR ビル 7F のプライベートサロン「プリバード」にて開催。

このビルはリノベーションにより食とアートを創造する複合施設に生まれ変わったとか。

東京スカイツリーも間近に見え、我々の発想も宙を飛ぶ勢いで、熱い議論が交わされた。

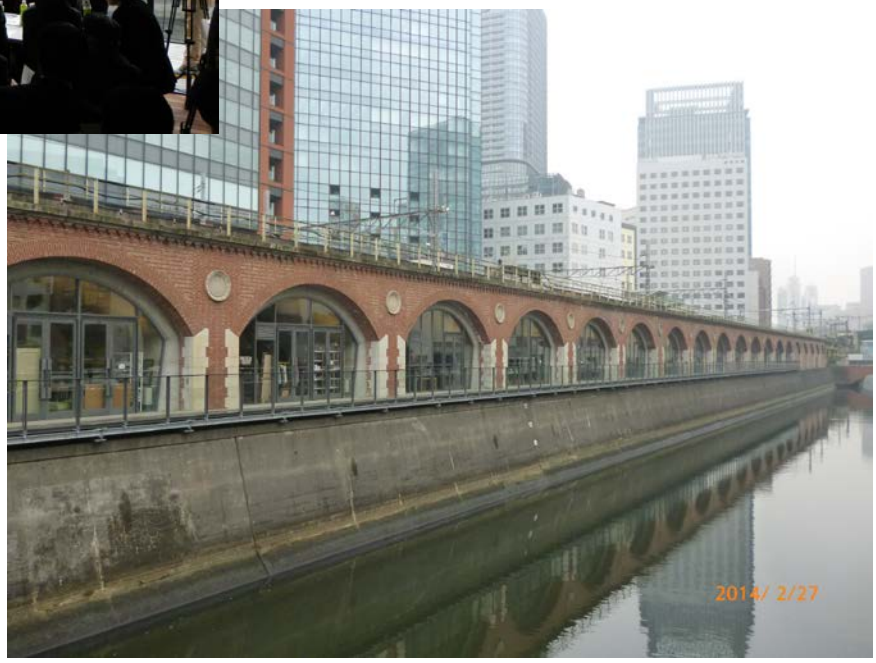
MIRROR ビル 7F「プリバード」

第４回懇談会

明治 45 年に開業された万世橋駅をリノベーションして、昨年オープンした「マーチエキュート神田万世橋」のイベントスペースにて開催。

神田川沿いに建つ往時の面影を丁寧に保存した建物は、レトロな雰囲気を私達に感じさせた。

先人の思いに心を寄せつつ、未来の日本の水辺について語り合った。



マーチエキュート神田万世橋

8．最近のトピックス

「全国の水辺自慢写真集」の募集・公表　（平成 25 年 9 月）

～河川の美しさを再認識し、魅力ある水辺づくりへの意識の醸成～

○川や水辺の様々な魅力や価値を再認識するとともに、他の地域の水辺の風景に接することにより、今後の水辺づくりを考えるきっかけとなることを期待し、地域のシンボルとなっている「美しい水辺とまち」をテーマに風景写真を募集。

国土交通省 水管理・国土保全局の廊下を全面的にギャラリーとして活用し全写真を展示

URL：http://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/utsukushiimizube/

QR コード：

東京リバーサイドライフドリンクス

これらの行政の動きに呼応して、民間の主導により、水辺に関心の高い方たちが、水辺の将来について語り合いながら交流、連携を深める「東京リバーサイドライフドリンクス」が開催。

第１回（平成25年9月26日）
（会場：シエロイリオ（隅田川沿い））

第２回（平成25年12月4日）
（会場：ニホンバシイチノイチノイチ（日本橋川沿い））

➡ 水辺におけるビジネスチャンスの発掘や、水辺文化の発信源となっていくことを期待。

未来に向けた結び

本メッセージは、住民、企業、行政などのいずれか特定の主体に対してのものではありません。すべての日本国民に送られています。コメンテーターからの寄稿文は、コメンテーター個人のバックラウンドから様々な主体に対して送られています。多様な主体それぞれに求められていることを、多様な主体みんなが理解して共感できたら、考えて行動することが大切です。

水辺とまちを自由度の高い魅力ある空間に戻していくためには、水辺とまちづくりに関わること、とにかく楽しく使い倒すこと、既存施設をクリエイティブに再生すること、利用者自らが水辺の楽しみ方のルールをつくること、利用者、地域住民、行政とのキャップを埋めること、行政も意識改革をすること、持続可能性を意識すること、などの視点が重要であるというたくさんのヒントが出てきました。

これらを実行するためには、住民、企業、行政の三位一体での取り組みやそれぞれの主体のノウハウを共有したり、それぞれの間にある障壁をクリアすることが必要です。そのためにも、各主体間をつなぐ仕組みやコーディネーター（個人、団体）の存在がキーになると思います。

今まさに、水辺とまちの未来創造はスタート地点に立ったばかりです。これからも、もっと議論を継続していくことが大切ですし、全国各地で、それぞれの地域の取組が芽生えるよう、「気づき」の視点を広めていくことと実行支援していくことについて、本懇談会はしっかり支援していくことを誓います。

この取組を普及させるためのプロモーションをこれからスタートさせることが必要です。水辺とまちの未来創造は今まさに始まろうとしています。水辺を「つくる」だけでなく「育てる」時代です。水辺とまちを「育て」あげる主役は皆さんひとりひとりです。皆さんの手で水辺とまちの未来を創造しませんか。